平成 28 年度　春期　情報セキュリティマネジメント試験　解答例

午後試験

問題	設問	枝問		正解	備考
問 1	設問 1	(1)	a	キ	
			b	ク	
		(2)	c	ウ	
		(3)		アエ	
		(4)		カ	
	設問 2	(1)		カ	
		(2)	d	エ	
		(3)	e	イ	
		(4)	f	ア	
		(5)		エ	

問題	設問	枝問		正解	備考
問 2	設問 1	(1)		オ	
		(2)		エ	
		(3)	a	オ	
			b	イ	
		(4)		ウ	
		(5)		エ	
		(6)		イ	
	設問 2	(1)	c	エ	
		(2)	d	ア	
			e	ウ	
			f	ア	
		(3)		ウ	
		(4)		ア	

問題	設問	枝問		正解	備考
問 3	設問 1			イ	
	設問 2			イオ	
	設問 3	(1)	a	イ	
		(2)	b	エ	
		(3)	c	ア	
		(4)	d	イ	
		(5)		イ	
	設問 4	(1)	e	カ	
		(2)	f	ア	

問１

出題趣旨
近年，標的型攻撃メールによって組織の内部情報を窃取される事故が多発している。標的型攻撃は，大手企業や官公庁にとどまらず，踏み台にする目的で取引先や関連会社を狙うケースも増えてきており，情報システムの利用部門も含め誰もが狙われる立場にある。 本問では，標的型攻撃メールの対策検討に関する能力，情報セキュリティインシデント対応に関する能力，従業員一人一人の意識向上の重要性を理解した上で情報セキュリティ教育を実施していく能力を問う。

問２

出題趣旨
情報システムを活用して業務を遂行する職場において，その職場の要員に対する適切な権限設定の維持管理は，情報セキュリティ上，欠かすことができない管理業務である。このため，情報システムの利用部門は，人事異動や組織変更の際に不要な権限設定の放置などのセキュリティ違反が起こらないよう，業務で利用する情報システムの特性を理解した上で，適切に当該権限設定の維持管理に努める必要がある。 本問では，業務上の役割分担や規則に応じた適切な権限設定を検討する能力，承認者の不在，要員の追加，交代といった日常起こり得る変化において情報セキュリティ上のリスクを考慮して対応する能力を問う。

問３

出題趣旨
情報セキュリティを維持するために，その評価は欠かすことができない。情報セキュリティの評価体系にCSA などの自己評価を適切に取り入れていくことが，組織の情報セキュリティを効率的に維持するポイントとなる。 本問では，まず，情報システムの利用部門が，簡易チェックリストを用いて自主的にチェックする仕組みを検討する際に，どのような評価項目が適しているか判断する能力を問う。続いて，監査部門の依頼に基づいてCSA 方式によって自己評価を行う際に，情報セキュリティの実施状況を適切に評価する能力と，その結果に基づいて改善計画を策定する能力を問う。